

新「地域で学ぶ」支援体制強化事業

～インクルーシブ教育システム構築に向けて～【予算額 15,668千円】

資一教委 1
 学校支援課
 内線4643

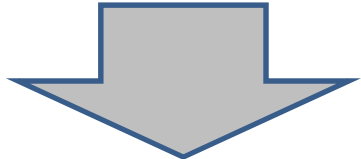
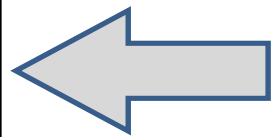
【目標】

○「地域で学ぶ」支援体制を強化することで、障害のある子どもとない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムの早期構築をめざす。

○「地域で学ぶ」ことによって、障害のある子どもの学習意欲向上とともに、障害のない子どもが「多様性」を受け入れられる価値観の醸成を図る。

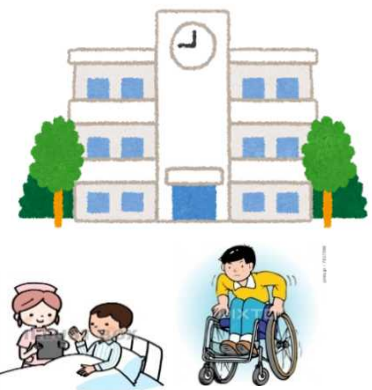
【現状と課題】

- ・義務教育段階の児童生徒数に占める特別支援学校在籍数の割合が全国に比して高い
- 〈H25特別支援学校在籍数割合〉
- 全国：0.65%
 (約6万7千人／約1,030万人)
- 本県：0.94%
 (1,207人／128,898人)
- 全国と本県の差
 +0.29ポイント
- ・障害者の権利条約の批准、発効を受け、共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育システム」の構築に向けた教育環境整備の迅速な対応が求められている



【目標実現のための5つの取組】

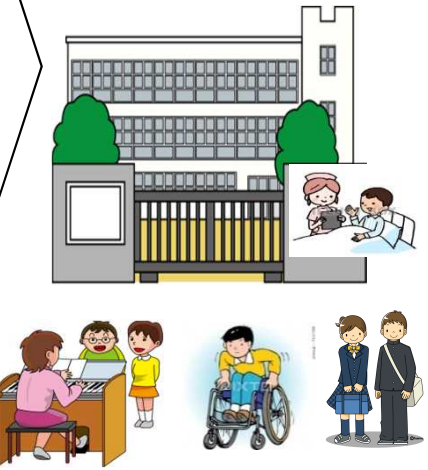
特別支援学校



「ともに学ぶ」体制づくり

- ①インクルーシブを見据えた就学指導の推進
- ②小中学校（高校）教員の専門性向上
- ③小学校と特別支援学校との交流および共同学習の推進
- ④モデル事業での小中学校へのインクルーシブ・サポーター（支援員）、医療的ケア支援スタッフ（看護師）の配置助成

小学校・中学校



柔軟な学びの仕組み作り

- ⑤「副次的な学籍」（特別支援学校と小中学校などとの両方に学籍を持つ）などの新たな仕組み作り

子どもと向き合う時間の確保 ～少人数教育によるきめ細かな指導の推進～
小中学校全学年で少人数学級編制を実施

趣旨：子どもたちが「学ぶ習慣の確立」「学習意欲の向上」「確かな学力の向上」「集団への適応」を身につけ、きめ細やかで充実した学びを実現するため、小中学校全学年で少人数学級編制を実施する。

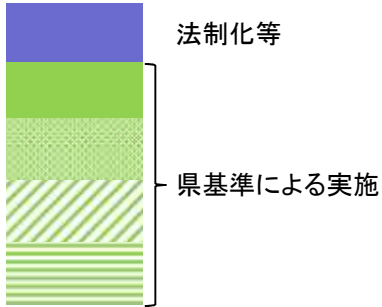
35人学級を小中学校全学年で実施

- 県独自措置
- 小学校3年生 35人学級編制
 - 小学校4年生 35人学級編制【※】または少人数指導の選択
 - ★小学校5・6年生 35人学級編制【※】または少人数指導の選択
 - 中学校1年生 35人学級編制
 - 中学校2・3年生 35人学級編制【※】または少人数指導の選択
- 【※】学級児童生徒数の下限は20人



H27	法制化等	完全実施	少人数指導との選択	完全実施	少人数指導との選択
-----	------	------	-----------	------	-----------

本県における
35人学級編制の変遷



H26					少人数指導との選択でどちらか1学年				
H25									
H24									
H23	法制化等								
H19									
H18									
H16	完全実施						完全実施		
H15		← 標準3学級以上						← 標準5学級以上	
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3

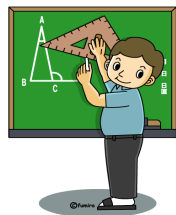
現状と課題

子どもと正面から向き合うことのできる教育環境の整備

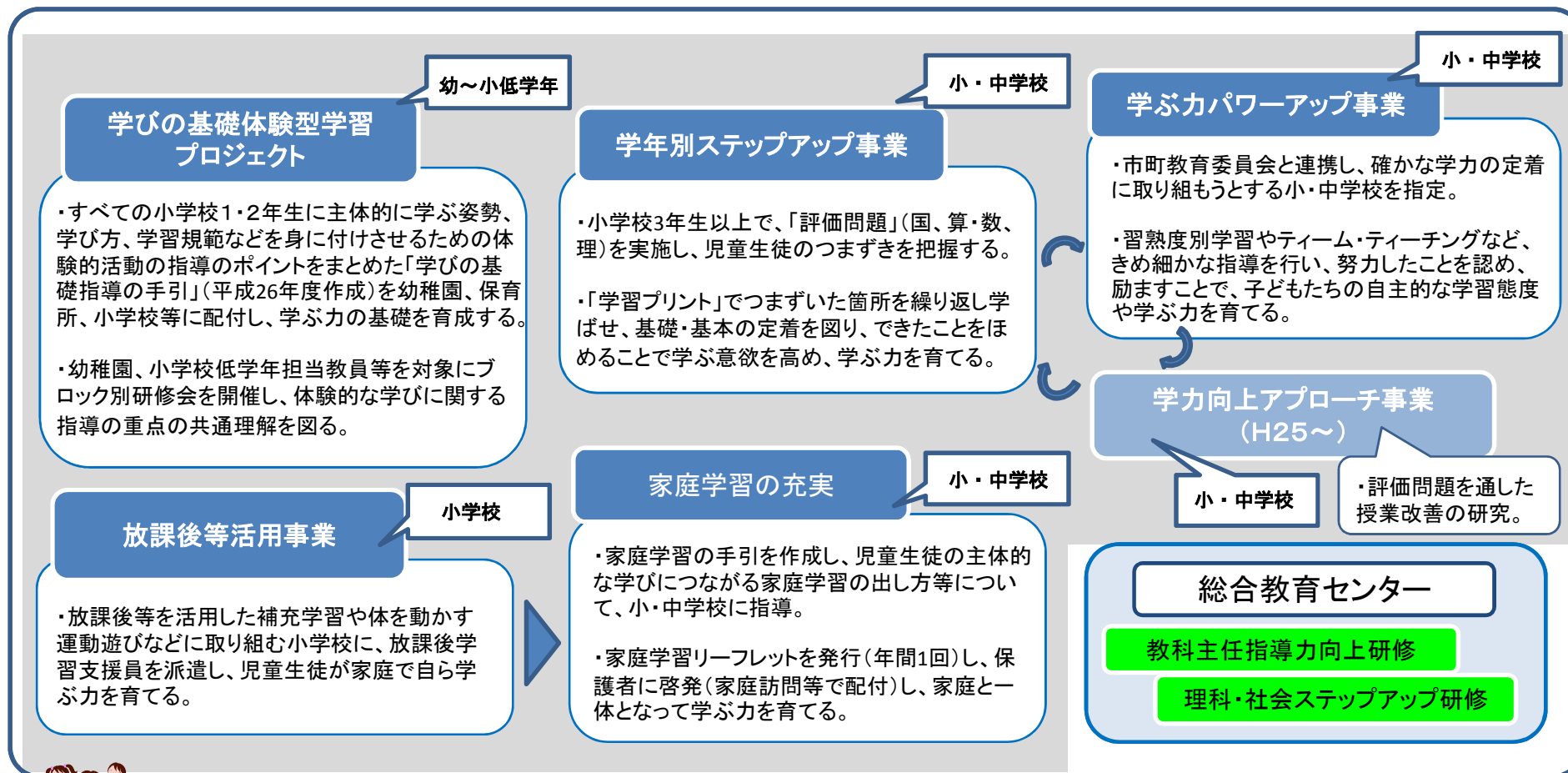
もっと先生に話を聞いて欲しい。

- ・確かな学力の育成
- ・小1プロブレム、中1ギャップなどの問題
- ・いじめ問題への対応の在り方

新 教科指導力 ステップアッププロジェクト 【予算額 33,569千円】



- 子どもたちに、わかる・できる喜びを実感させて、学習に関する関心・意欲を高め、学ぶ力を育む。
- 家庭での学習習慣を始め、児童生徒の学習状況を改善し、主体的な学びの姿勢を育成する。



授業の質・教科指導力の向上

確かな学力の育成

「うみのこ」新船建造にむけて

資一教委 4

学校教育課
内線4570

【予算額 1,094,194千円】

建造の 必要性

昭和58年以来、本県の小学5年生全員を対象に30年以上航海を続け、49万人を超える児童が乗船しており、過去に活動が途切れたことはない。
今後とも引き続き、琵琶湖をフィールドとした本県の体験学習、環境学習において欠くことができないものである。

新船のコンセプト

琵琶湖をフィールドにした体験学習、環境学習のシンボル

新たな視点を取り入れた学習ができる船

探究的な学習

- 一堂に会して議論できる学習室(兼食堂)
- 水質等をさらに深く調査、検証する実験室
- 学習成果等の交流やテレビ会議ができる多目的室

船内での集団宿泊

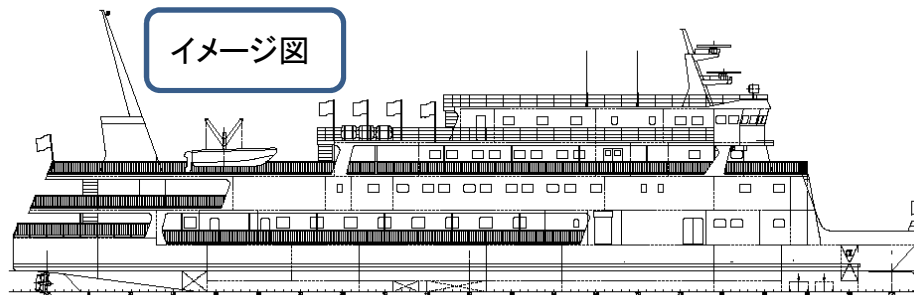
- 制約された船内環境において、節水や省エネルギーを意識するソーラー発電や風力発電を示したパネル

新たな機能をもった学習船

安全・安心

- バリアフリー化したエレベーターやトイレ等のユニバーサルデザイン
- 散水で消火を図るスプリンクラー

イメージ図



エコシップ

- 排出ガスを削減する動力システム
- ソーラー発電、風力発電や太陽光採光

災害時にも活用

- 災害時、物資の湖上輸送等にも活用

体育授業力向上事業

【予算額】 1,114千円

資一教委5

スポーツ健康課
内線4614

趣旨

運動機会を充実させ、運動遊びに自ら取り組む子どもを育てる

現状

- 子ども… ●全国体力・運動能力等調査において、小学校では体力合計点が全国平均を下回っている。
- 平日の運動時間が全国平均に比べて少ない。(放課後の時間が特に少ない。)
- 教員… ◆中学校保健体育科免許所持者は全体の約6%であり、体育科を研究教科としない教員が多い。
- ◆授業実践交流や学習指導法についての研修内容が、授業実践につながりにくい。

滋賀県体育授業力向上委員会

- 【主な役割】 ・子どもの運動機会充実の推進 ・体育授業力向上のための授業改善の研究を進める
- 【開催回数】 年4回
- 【構成員】 ・市町教委学校体育担当者 ・県教委学校体育担当者
- 【指導助言】 ・大学教授

市町各校の運動遊び充実のための指導・支援

体力向上のための授業改善の研究

運動機会(時間・内容)の充実

県教育委員会

運動遊び事例集の作成



放課後学習支援員
100名

派遣

- * 運動遊びの指導(事例集の活用)
- * チャレンジ・ランキングの測定

- ・体力向上を目的とした運動遊びを指定
- ・ランキングの掲載、表彰

「健やかタイム」の実施(休み時間)

- ・全児童が運動に取り組む時間を、休み時間に設定
- ・いろいろな運動要素を含む運動遊びの実施

放課後運動遊びの実施

- ・放課後を利用した運動遊びに取り組む
- ・ランキング運動遊びに挑戦する

チャレンジ・ランキングの実施

- ・県が指定する運動遊びに挑戦する
- ・県ホームページで自己ランキングを確認する
8の字とび、ハイスピードなわとび など

やる気にさせ、運動量を増やす授業改善

運動量の豊富な授業展開

- ・予備運動を充実し、基本的な運動を身につけさせる
- ・個人差に応じた場、運動量を保障する場を設定する

自発的な取組を促す工夫

- ・「できた」「わかった」など1時間に1つ以上の学びをつくる
- ・主運動のゲーム化やカードの提示などを工夫する

体育学習のマネジメント

- ・学習規律を高め、体育学習の「仕組み」を作る
- ①ムダな時間が削減され、運動時間が確保できる
- ②集中して学習に取り組ませることができる
- ③安全に学習に取り組ませることができる

つなげる
生かす

小・中学校教員

体育授業力アップ研修会

トップアスリートや有識者によるシンポジウム・講演により、「運動好きな子どもへの正しい導き方」を研修する。
・対象者 各小・中学校教員 ・内容 ①体育授業事例発表 ②シンポジウムや講演 ③パネルディスカッション(受講者参加型)

運動遊びの好循環

事業の効果



子どもが運動遊びを通して、運動することの楽しさを感じる
自由時間(休み時間・放課後・家庭)に積極的に運動遊びをする



運動遊びの習慣化
体力の向上